

24 大学 28 件に 30 億 7,100 万円交付！

東大“ユビキタス情報社会”研究の2億4,800万円から、九州産業大“柿右衛門様式”の陶芸研究1,300万円まで、1件に平均1億968万円。

旺文社 教育情報センター

16年10月

文部科学省はこのほど、大学の卓越した研究拠点づくりを目指す「21世紀COEプログラム」の16年度選定に採択された24大学28件に交付する補助金額を決定した。

総額は30億7,100万円で、研究拠点1件当たりの平均は1億968万円。拠点交付最高額は東大「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」で、2億4,800万円を獲得。大学別でも2件採択の東大がトップで3億7,800万円、同じく2件の北大が3億7,500万など、国立大に27億1,400万円(総額の88.4%)が交付される。私立大は2億4,700万円(同8.0%)、公立大は1億1,000万円(同3.6%)の交付となった。

採択拠点の補助金

<総額30億7,100万円、当初申請額の86.3%交付>

「21世紀COE(Center of Excellence - 卓越した拠点)プログラム」(以下、「21世紀COE」)がスタートした14年度は、生命科学/化学・材料科学/情報・電気・電子/人文科学/学際・複合・新領域の5分野(50大学113件採択)に167億4,300万円(1件平均1億4,817万円)、15年度は医学系/数学・物理学・地球科学/機械・土木・建築・その他工学/社会科学/学際・複合・新領域の5分野(56大学133件採択)に158億1,800万円(1件平均1億1,893万円)が交付され、当初設定された分野は15年度で終了している。

第3弾に当たる16年度は、「革新的な学術分野」の開拓を目指す拠点形成に限定して実施され、186大学320件の申請があり、24大学28件が既に採択されていた(当情報センター8月既報)。3カ年にわたる「21世紀COE」の形成は、93大学274件に及ぶ。

16年度採択の補助金総額は30億7,100万円(1件平均1億968万円)で、採択された各大学からの当初申請額35億5,772万円の86.3%である(表1・表2、図1参照)。

補助金は原則5年間交付されるが、交付2年経過した時点で中間評価を行い、一部入れ替えもあり得るといふ。また、金額も年度予算や実績などで変更される場合もあるようだ。

なお、16年度の「21世紀COE」予算総額は367億2,700万円であるが、14・15年度採択拠点への補助金等を差し引き、30億7,100万円が交付される。

< 交付額の88.4%は国立大、私立大は8.0% >

1 大学当たりの平均交付額は、1億2,796万円。国公立大別で見ると、国立大27億1,400万円(交付総額に対する割合88.4%)、私立大2億4,700万円(同8.0%)、公立大1億1,000万円(同3.6%)となっており、採択件数と同じように“国高私低”だ(表1・図2参照)。国公立大への配分割合を前年度と比べると、国立大11.4ポイント増、公立大1.0ポイント増に対し、私立大は12.4ポイントの大幅減だ。

国立大では、北大・東北大・東大・名大・京大・阪大といった九大を除く旧帝大への交付額が多く、この6大学だけで交付大学全体の43.7%、国立大の49.5%に当たる13億4,300万円に達している。この旧帝大の1大学当たりの交付額は2億2,383万円で、旧帝大を除く国立大の約2.1倍である。

大学別では東大(採択2件)の3億7,800万円をトップに、北大(同2件)3億7,500万円、東京工大(同3件)2億8,100万円と続き、第4位に琉球大(同1件)2億1,900万円、第5位に群馬大(同1件)と阪大(同1件)がともに1億7,800万円が入っている。私立大では京都薬大(同1件)が1億3,000万円で第10位、公立大の大阪市大(同1件)が1億1,000万円で第11位(表3参照)。

研究拠点別の交付状況

< 東大“ユビキタス情報社会”研究に最高額2億4,800万円、九州産業大“柿右衛門様式”の陶芸研究には1,300万円交付 >

採択された研究拠点(28件)への交付額は、東大 - 情報学環・学際情報学府学際情報学専攻の「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」の2億4,800万円を最高に、九州産業大 - 芸術研究科造形表現専攻の「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」の1,300万円まで、1件当たり平均1億968万円である(表2参照)。

ところで、21世紀は、人間社会のあらゆる場面においてデジタル化された情報を活用する“ユビキタス情報社会”(ユビキタス<Ubiquitous>はラテン語で、「遍在する」意)へ転換されていくものとみられている。東大のユビキタス情報社会の研究は、そうした情報社会の基盤を形成しながら、そこに生じる様々な課題の解決をはかっていくためには、情報学を核とした技術や社会、経済にわたる幅広い学際的学問基盤が必要であり、その確立を目的としているという。

一方、九州産業大は、寛永20(1643)年ころに創始された乳白色の素地に、鮮やかな色絵(とくに赤)を施した“柿右衛門様式”の陶磁器についての研究拠点形成だ。柿右衛門様式は日本の陶磁器界の発展に貢献したばかりでなく、西洋の陶磁器文化の発展に大きな影響を与えたにもかかわらず、今日までその全容について研究されていないとう。同大では柿右衛門様式陶芸研究センターを設立して、柿右衛門様式陶芸について、意匠研究、技法研

究、 歴史研究・カリキュラム開発の3研究部門からその全体像を解明するとともに、その成果を大学院の陶芸関係カリキュラムに反映させて、陶芸分野の高度専門職業人育成のプログラムを提案するという。

競争的資金援助

< 科研費 >

「21世紀COE」とよく似た競争的資金援助に、科学研究費補助金(以下、「科研費」)がある。科研費は、人文科学、社会科学、自然科学のあらゆる分野における基礎的研究から最先端の研究まで、大学その他、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関、国公立の試験研究機関や民間企業の研究所等に所属する研究者、研究グループを援助する研究助成費である。

16年度の科研費の予算は、「21世紀COE」(16年度新規採択分+14・15年度継続分)の約5.0倍に当たる1,830億円(対前年度65億円、3.7%増)で、16年8月現在の交付額は1,587億9,456万円(新規採択分+継続分で、直接+間接経費分を含む)である。

科研費の配分状況(16年8月現在の新規採択分+継続分で、直接経費分)を研究分野別で見ると、医・歯・薬学系、生物科学系を含む生物系48.1%、理工系39.3%、人文・社会系11.2%など、生物系と理工系が圧倒的に多い。大学への配分額は全体の88.9%に当たる1,410億7,656万円で、国立大1,134億819万円(全体に対する割合71.4%)、私立大202億8,209万円(同12.8%)、公立大73億8,629万円(同4.7%)となっている。また、旧7帝大への配分額合計は695億5,039万円にのぼり、大学全体の49.3%を占めている。こうした配分状況は、「21世紀COE」とよく似ている(図3参照)。

ところで、「21世紀COE」と「科研費」との違いは、上記のように予算規模にもあるが(図4参照)、補助金の使い道が違うようだ。科研費は研究を達するための手段や方法に必要な経費として、いわば“戦術”に使われる。これに対し、「21世紀COE」は、人材育成も含め、学長を中心としたマネジメント体制の下、大学の卓越した研究拠点づくりの“戦略”構想に使われるといえよう。

< 予算の重点配分 >

文科省が進める「特色ある優れた大学教育の一層の展開」としては、「21世紀COE」の他、次のような取組みが展開、または予定されている。

短大を含む国公立大の教育改善に役立つ特色ある優れた取組みを支援する「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP; 16年度予算額31億2,433万円、17年度予算要求額35億5,224万円) / 社会的な要請の強い政策課題に対応した優れた取組みを支援する「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム」(現代GP; 16年度19億9,650万円、17年度42億5,990万円) / 「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」(16年度15億円、17年度25億円) / 大学教職員の海外派遣を支援する「海外先進教育研究実践支援」(16年度15億9,197万円、17年度24億413万円) / 海外大学との連携など、国際的な教育活動の推進

を支援する「戦略的国際連携支援」(17年度新規10億円) / 「地域医療などに対応した医療人教育支援プログラム」(17年度新規21億円)など。さらに、高等教育機関の大部分を占める私立大に対しては、研究基盤の整備と研究機能の高度化を図るために、「私立大学学術研究高度化推進事業」(16年度予算額110億2,700万円；17年度要求額95億円)が設定されており、各大学の申請、審査、選定を経て、研究費等の重点支援が行われている。

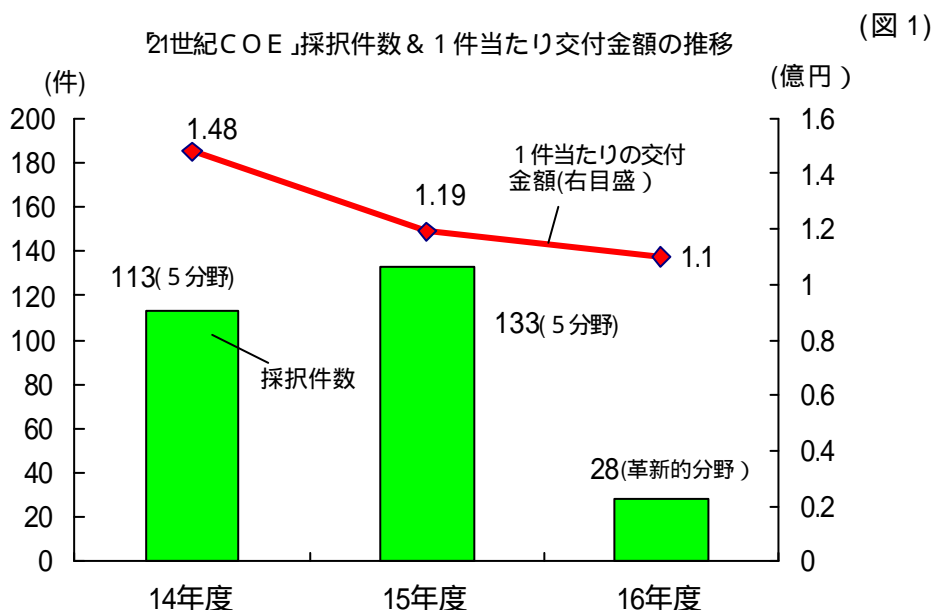
こうした予算の重点配分は、10年10月の大学審議会(当時)答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について - 競争的環境の中で個性が輝く大学 - 」において、競争的環境の中で教育研究の質的向上を図るために、各大学の教育研究活動を客観的かつ公正に評価し、適切な資金配分を行うよう提言されて以降、目立ってきた。

競争的資金援助は、大学の研究・教育評価と一体となって、今後ますます拡大していくことになる。

「21世紀COE」16年度採択拠点補助金交付状況 (表1)

区 分		革新的な学術分野
国立大	採択件数	23(19)
	交付決定額	2,714,000
公立大	採択件数	1(1)
	交付決定額	110,000
私立大	採択件数	4(4)
	交付決定額	247,000
合 計	採択件数	28(24)
	交付決定額	3,071,000

注. 上段；件、()内は大学数。下段；千円。
16年度の予算総額は367億2,700万円であるが、14・15年度採択拠点の継続補助金等を差し引き、30億7,100万円が交付される。



「21世紀COE」16年度採択拠点別補助金交付状況/交付高額順一覧

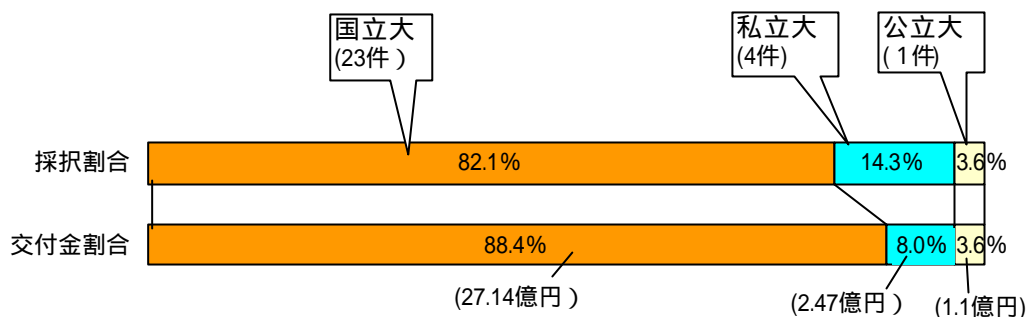
(単位:千円、表2)

順位	大学	拠点プログラム名	当初 申請額	交付 決定額	申請額 充足率(%)
1	東大	次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	423,980	248,000	58.5
2	琉球大	サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析	264,000	219,000	83.0
3	北大	海洋生命統御による食糧生産の革新	247,125	203,000	82.1
4	群馬大	加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	207,000	178,000	86.0
4	阪大	細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	200,000	178,000	89.0
6	北大	トポロジー理工学の創成	193,760	172,000	88.8
7	京大	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	155,924	149,000	95.6
8	東北大	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	159,600	132,000	82.7
9	名大	計算科学フロンティア	140,578	131,000	93.2
10	東大	言語から読み解くゲノムと生命システム	150,000	130,000	86.7
10	京都薬大(*)	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓	153,250	130,000	84.8
12	東京工大	地球:人の住む惑星ができるまで	124,500	114,000	91.6
13	大阪市大()	疲労克服研究教育拠点の形成	110,700	110,000	99.4
14	北陸先端科学 技術大学院大	検証進化可能電子社会	121,000	107,000	88.4
15	金沢大	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成	118,000	101,000	85.6
16	広島大	超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界	99,000	99,000	100.0
17	岩手大	熱-生命システム相関学拠点創成	104,750	90,000	85.9
18	静岡大	ナノビジョンサイエンスの拠点創成	88,900	88,000	99.0
19	東京工大	インスティテューショナル技術経営学	85,400	85,000	99.5
20	東京工大	エージェントベース社会システム科学の創出	82,600	82,000	99.3
21	高知工科大(*)	社会マネジメント・システム	72,100	72,000	99.9
22	岐阜大	衛星生態学創生拠点	52,700	52,000	98.7
23	一橋大	ヨーロッパの革新的研究拠点	45,000	45,000	100.0
24	鳥取大	染色体工学技術開発の拠点形成	40,000	40,000	100.0
25	千葉大	持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	37,200	37,000	99.5
26	奈良女大	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	34,300	34,000	99.1
27	二松學舎大(*)	日本漢文学研究の世界的拠点の構築	32,954	32,000	97.1
28	九州産業大(*)	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	13,400	13,000	97.0
合 計 額			3,557,721	3,071,000	86.3

注:国立大=無印、公立大= 印、私立大=*印

「21世紀COE」16年度国公私大別採択 & 交付金割合

(図 2)



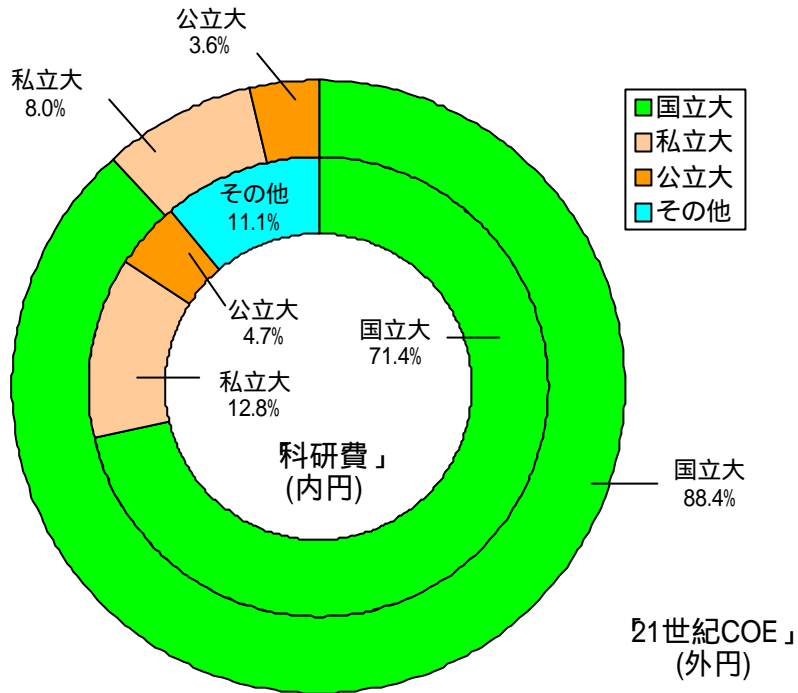
「21世紀COE」16年度大学別補助金交付状況 / 交付高額順(単位:千円、表3)

順位	大学	採択件数	当初申請額	交付決定額	申請額充足率(%)
1	東大	2	573,980	378,000	65.9
2	北大	2	440,885	375,000	85.1
3	東京工大	3	292,500	281,000	96.1
4	琉球大	1	264,000	219,000	83.0
5	群馬大	1	207,000	178,000	86.0
5	阪大	1	200,000	178,000	89.0
7	京大	1	155,924	149,000	95.6
8	東北大	1	159,600	132,000	82.7
9	名大	1	140,578	131,000	93.2
10	京都薬大(*)	1	153,250	130,000	84.8
11	大阪市大()	1	110,700	110,000	99.4
12	北陸先端科学技術大学院大	1	121,000	107,000	88.4
13	金沢大	1	118,000	101,000	85.6
14	広島大	1	99,000	99,000	100.0
15	岩手大	1	104,750	90,000	85.9
16	静岡大	1	88,900	88,000	99.0
17	高知工科大(*)	1	72,100	72,000	99.9
18	岐阜大	1	52,700	52,000	98.7
19	一橋大	1	45,000	45,000	100.0
20	鳥取大	1	40,000	40,000	100.0
21	千葉大	1	37,200	37,000	99.5
22	奈良女大	1	34,300	34,000	99.1
23	二松學舎大(*)	1	32,954	32,000	97.1
24	九州産業大(*)	1	13,400	13,000	97.0
合計		28	3,557,721	3,071,000	86.3

注: 国立大 = 無印、公立大 = 印、私立大 = *印

21世紀COE」& 科研費」補助金の16年度配分状況

(図 3)



注．科研費の「その他」は、短大、高等専門学校、研究所等の機関。

科研費」& 21世紀COE」予算額の推移

(図 4)

